

「父親の子育て」をメディアはどう伝えたか — インターネットと新聞を比較して —

松 山 由美子

1. 研究の背景

「父親の子育て」を語るメディアを概観すると、子育てする父親は珍しく、紹介の対象となるようである。そして、「もっと積極的に育児に参加しましょう」という、多くの父親への呼びかけが多そうに見える。現代の父親は仕事ばかりしていて育児等への参加が少ないというイメージが日本では強いが、実際のところどうなのであろうか。

現代の日本の父親像を家族研究や父親研究などの文献から概観すると、「母親と父親の同質化」が問題として挙げられている（読売新聞：1996）。したがって、父親が子育てに参加する際、「2人目の母親」になってしまい、「父親らしい文化」を持っていない、つまり、「父親の子育て」ができていない（読売新聞：1996）という指摘がなされている。

しかし、近年では、少子化・核家族化という社会を反映しているのか、厚生労働省のキャンペーンなども功を奏しているのか、保育所や子育て支援センター等で行われている子育て支援の取り組みにも、母親だけでなく、父親の参加も意識した取り組みが増えてきており、また、父親の参加もわずかながら増えてきているようである。

そこで筆者が、現代の「父親の子育て」像を探るために、インターネットでどのように書かれているかを調べ、具体的な父親像や父親たちがどのような子育て観を持っているかについて検証してみた（松山：2004）ところ、子どもを愛する気持ちや、子育てを楽しもうとする気持ちは強いが、年代によってその考え方がやや違うことが明らかになった。特に、育児休暇制度が始まった当初の父親たちと、現代の父親たちでは、現代の父親たちの方がより「子育ての楽しさ」を全面に押し出している。そして、「いい子育て」「いい父」になるには「いい夫」であることが大事だという考え方が浸透していることも明らかになった。

父親は社会的存在といわれ、その時代の社会のあり方を色濃く反映させた存在である（高橋：1994）と言われている。インターネット上で子育てについて述べているホームページを見ると、高橋のいうとおり、社会の変化に伴い、父親たちの意識も変化していることがよく分かる。

さて、社会が変化し、その影響を受けながら生きている個人（ここでは父親）たちのさまざまな様子や意見が表現されている中で、従来から慣れ親しんでいるメディアの1つである新聞記事は、どのように父親の子育てについて伝えているのだろうか。新聞における父親の子育てに関する記事数の増減は、社会の変化をダイレクトに表していると考えられた。しかし、現代はインターネットという新しいメディアの出現により、インターネットに表れた子育てに関する父親の意見や主張などを取り上げ紹介したり、メディアミックスが行われたりすることも出てきた。

したがって、前回の筆者の研究結果のように、インターネットが、個人が生息の意見を表現し、伝達することができるメディアであるからこそ、新聞記事数の後追いをするような変化を見せているというだけではなく、増えてきているのではないだろうかと思われる。また、この数年で、インターネットは情報技術の飛躍的な向上により、その利用者人口を増やし、今まで閲覧するだけだった人が容易に開設者・表現者になることができるようになってきた。

そこで、本稿では改めてインターネットと新聞記事が「父親の子育て」を誰がどのように語っているのか、その内容や量を調査してみようと考えた。

2. 研究の目的と方法

2-1 研究の目的

「父親の子育て」に関するメディアの「語り」

をインターネット上と新聞記事とで比較し、各メディアで「父親の子育て」がどのように語られ、どのような特徴があるのかを探ることを目的とする。

2-2 研究の方法

まず、ブログの登場など、情報化社会の進化により変わりつつあるインターネットの現状をまとめる。そして、検索サイトのカテゴリ（ディレクトリ）における「父親」に関するサイトの登録状況を再び調査・調達し、前回調査との比較を行いながら、ブログで語られる「父親の子育て」について調査する。

さらに、新聞記事についてインターネットと同時期の記事数や記事内容の特徴などを先行研究と比較しながら探る。

最後に、それらを数的・質的に比較し、各メディアの特徴を探りたい。

3. インターネットで語られる「父親の子育て」

3-1 ブログの登場とインターネット

前回調査より1年経った今、特に、ブログ（＝Blog。正式名称はWeblog）が急激に増えたため、インターネットで個人が情報や意見を発信するという行為は昨年度の調査時の状況から飛躍的に増えたと言える。さらに、2004年頃から、日本でも、携帯電話からブログを構築できるという意味のモブログ（アダム＝グリーンフィールドが言った「moblogging」が語源だと言われている。モバイル（mobile）とブログ（blog）の合成語）も登場し、より身近にユーザがインターネット上に自分の意見等を書き込み、発信できるようになった。

ブログとは、1999年頃からアメリカで広まった、ニュースや事件、趣味などに関し日記形式で自分の意見を書き込むインターネットのサイトやホームページのことを指す。その特徴は、従来のホームページが持っていた個人の意見を表明していくことができる点と、従来の掲示板が持っていた閲覧利用者が自由に意見を書き込んだり引用したりできる点とを同軸上で行うことができ、しかもそれらがホームページのようになるよう自動的

に再構築してくれるというツールである点である。また、更新Pingという機能を用いて、自分がブログを更新したことをPingサーバに伝えることができるのも大きな特徴である。Pingサーバは、ブログから更新Pingを受け取ったり、新しい記事の要約を取りに来てくれたりするため、閲覧利用者はPingサーバにアクセスすれば、新着情報のリストを見て、興味ある分野の最新の情報や意見にすぐにたどり着くことができるようになっている。

他にも、従来のホームページにはなかった機能がブログにはさまざまにあるが（例えばトラックバックやRSSなど）、このような機能のおかげで、ブログは個人ジャーナリズムとしても注目されている。また、作成や管理が非常に簡単にできることもあり、ブログは現在、ものすごい勢いで増加している傾向にある。

さらに、この勢いを加速させたのが、モブログの登場であった。パソコンがなくても、カメラ付き携帯電話などで撮影した写真や、メールで打ったコメントを簡単な手順で掲載できるツールだからである。もちろん、閲覧者側がコメントを追記することなども携帯電話で可能である。

個人ジャーナリズムとして注目されたブログではあったが、日本のブログ提供会社の宣伝文句を見ていると「ブログで日記をつけよう」的なものが多く、自分の思想や意見を述べていこうという趣旨よりももっと気楽に日記をつけて公開してみましようよ、という雰囲気を中心に押し出しているものが多い。

もちろん、日記の中でニュースやさまざまな事象に対して意見を述べることもあるので、広い意味では個人ジャーナリズムではあるが、論評などと固くかきこまっていないものが多く見られる。

「父親の子育て」に関するブログを概観してみても、このような「楽しい」「カンタンに」「気楽に」というイメージが前面に出ている、あくまで「日記」であるものが多く見られる。ブログが登場する前から、ホームページを独自に構築し、情報や意見を発信する人たちのように日記という形態をとりながらも意見や主張がかなり明確であったものと比べると、何かを主張するというよりは、日々の楽しさや苦勞を書いているという雰囲気を

より強く感じる (松山; 2004)。

ツールとしてのブログを用いたホームページの作成と表現が今後ますます隆盛になり、活発化するであろう理由の 1 つに、検索サーチエンジンとして主流になりつつあるロボット型のサーチエンジンが進化し、しかもそのロボット型のサーチエンジンがブログを重視する傾向があることも挙げられる。

実際、ツールとしてのブログを用いて作られたサイトは従来のホームページよりロボット型のサーチエンジン (「ロボット」と呼ばれるソフトウェアがインターネット上のサイトを独自に自動的に巡回してデータを収集するもの) に収集されやすいという特徴を持っている。そのため、サーチエンジンサイトの最大手である「Google」 (<http://www.google.co.jp/>) に認知されやすく、検索結果で上位に表示されやすくなるという特徴を持っている。

さらに、2005 年 10 月からは、ディレクトリ型検索サイトの最大手とも言われている「Yahoo! JAPAN」 (<http://www.yahoo.co.jp/>) が、専門の人員により登録を吟味し作ってきたディレクトリ検索より、独自に開発してきたサーチロボット YST (Yahoo Search Technology) による検索結果を優先して表示するという、Google と同じロボット型を採用することを発表した。理由はさまざまにあるが、ホームページの増加や変更 (たとえば廃止されたホームページへのリンクがずっと残っているなど) に人による吟味・対応では追いつかなくなってきた点や、サーチエンジンロボットの精度が上がり、利用者が減少したことなどが上げられている。実は、このような現象は、「Infoseek (インフォシーク楽天)」 (<http://www.infoseek.co.jp/>) や「Goo」 (<http://www.goo.ne.jp/>) などですで見られていたことである。つまり、ディレクトリ (カテゴリ) 型を持ちつつも検索にはロボットサーチの検索結果を重視するという動きである。しかし、理由はどうであれ、ロボット型を重視するということを Yahoo! JAPAN も行うことにより、ますますロボット型に強いといわれているブログが隆盛となることは間違いのないと思われる (ちなみに、インフォシーク楽天のロボットはブログにかなり有利

になるような検索結果を表示するようである)。すでにさまざまな企業が、ホームページを持ちながらも、今売り出したい商品独自のブログを別個に立ち上げ、対策を取っていることから、今後は、個人、企業などに関わらず、ホームページのブログ化は進むであろうと思われる。

3-2 各サーチエンジンのカテゴリ・登録ホームページの変化

先述したように、Yahoo! JAPAN は、近々ディレクトリによる検索を重視するのをやめ、ロボットによる検索結果を重視するとの発表を出した。そのためディレクトリが廃止されるのではないかという話も出ているようだが、Yahoo! JAPAN の発表によると、従来のディレクトリに登録されたページは「登録サイト」としてまとめて表示し、ユーザが必要に応じてクリックすれば表示させることができるようにするとのこと、ディレクトリ自体がなくなるのではないと言っている。

したがって、人の目と頭で選ばれたディレクトリに父親の子育てに関する項目についての調査を続けていきたい。

(1) 「Yahoo! JAPAN」ディレクトリ

2005/09/20 時点で、父親と育児に関連性のある「生活と文化>父親」カテゴリに掲載されているサイトは 39 件と、前回調査時の 42 件より 3 件減少したが、その 3 件は、「育児休業」カテゴリに移動したものであることが明らかになった。カテゴリができる背景には、それだけ閲覧者・利用者がそのキーワードの事項に対して要望が高まっていることを示している。育児休業法の改正や、厚生労働省が育児休業取得率の数値目標を掲げたことなどにより「育児休業」についての認識が広まりを見せているためではないかと思われる。この「育児休業」カテゴリについての詳細は後述する。

さらに、父親に関する Yahoo! JAPAN 登録サイトの数は、このカテゴリも含め他のカテゴリで関連するものも全て足すと 111 件と増えていた。その内訳は「父親」カテゴリだけでなく、「健康と医学」「自閉症」「離乳食」等さまざまなカテゴリに渡る。特に「自閉症」カテゴリに見られるよ

うに、障がい児を持つ父親の手記が増えたことが前回にはなかった特徴として挙げられる。また、中学校や小学校のカテゴリに入っているものも多く見られる。そのほとんどが「おやじの会」「父親クラブ」「父親の会」「父親のための育児サークル」などの紹介サイトであった。この数からも、全国的に父親の会が増えていることが推測される。

「体験記」「闘病記」「手記」などのカテゴリにあるサイトの中には、自分の子育てを紹介したり語ったりものだけではなく、子育てをする年齢の人たちが改めて自分の父親について回想し、体験談を掲載しながら自分の子育てを考えるというものも見られることが明らかになった。

「鉄道>画像」カテゴリにある「父の鉄道写真館」(<http://f35.aaa.livedoor.jp/~powermac/>)をその一例として挙げる。このホームページは、父親が生前に撮影した鉄道写真を掲載し、父親の存在を思い出し、自分を振り返ろうとしている姿が見て取れる。このホームページのトップページには以下のような作者のメッセージが綴られている。

「親父の思いで」

親父は元軍人でもあり、全てに厳格であった
自分は恐ろしい父親の機嫌を伺っては行動し
とても甘えられるような存在じゃなかった

そんな父親が小さく、弱い存在に思ったときが
一度だけあった

それは自分の結婚式の時だった

その時に初めて父親の頭をセットしてあげた
初めて触った父親の身体
それは小さくて、弱々しい父親の身体だった

父親と喧嘩ばかりしていた日々
親父を一度も孝行した記憶がない自分は
いまだに悔いが残っています。

そんな自分も、今は二児の父親
自分の息子たちもそう思うのであろうか…
亡くしてから思う、父親の偉大さ
もっと大事にしてあげたかった

このサイトの作者がこのホームページを作ることによって父親の愛情表現を再確認したり、父親との思い出を語りながら、自分の子どもとの思い出を、写真を通して語ったりしている。そして、このサイトの掲示板には、このホームページに感動し、父親への感謝や父親の存在を見直そうと思ったという閲覧者からの書き込みも見られる。

「育児休暇」カテゴリに関しては、2005/9/19にホームページを数件新登録しており、今後、充実がさらに期待されるカテゴリであると予想される。育児休業をキーワードに、企業と父親たちを結ぶ役割をするホームページも出てきた（「wiwiw」<http://www.wiwiw.com/>）。また、新規登録ホームページの中にはブログもあり、ロボット型サーチエンジンだけでなく、カテゴリを選ぶサーファーもブログに注目していることが見られる。

2004/05/20、2004/8/10と同じように「父」というキーワードで検索したところ、691件の登録サイトがあることが分かった。前回調査の571件より120件の増加である。また、登録サイト例を前回と比較したところ、前回のように「父」とは関係ないホームページではなく、先の「育児休業」だけでなく「シングルペアレント」「ワーキングマザー」「子連れ旅行」などのカテゴリが多く検索結果に出てくることなどから、育児に関連し、父親も育児について考えることができる有意義なホームページが増えたと考えられる。

さらに、以前から登録されているホームページについても、ブログへ移行したものや、2005年に入ってリニューアルをし、更新に力を入れたホームページも見られる。このようなところに、父親の育児に関する興味や関心の高まりに応えようとする人たちがいることや、今までの父親の経験を大事にし、また広めていこうという動きを見ることができた。

(2)「Looksmart 社」カテゴリ

2004年の調査時とカテゴリ編成が若干変わったが「父親の育児」で36件のホームページが登録されている。「父親」で検索すると、103件のホームページへのリンクが表示される。個人の日記カテゴリに登録されているものや、絵本紹介サ

イト、父親や子育てを題材にした映画を紹介するサイトも結果として表示されており、結果としては充実の方向を見せていることが明らかになった。

(3) 「goo」カテゴリ (InfoBee)

2003/12/10 時点で「父親」で検索すると 52 件 (前回調査時より 3 件増) のホームページが登録されていた。

こちらもカテゴリ編成が若干変わっており従来の「くらしと社会>家族>父親>情報、ニュース」のカテゴリは、現在「知識・情報」カテゴリとなっている。しかも、1996~1997 年作成のホームページを増やすなど、他の検索サイトとは違った展開を見せている。「育児ライフはアメとムチ!？」 (<http://www.wakiwaki.com/cslife/>) や「子育てエッセイ集 (take it Cmaj! 内)」 (<http://homepage1.nifty.com/Cmaj/child/>) などがそうであるが、このように実は古くからある良質なホームページの掲載については、推薦が今になってあったのか、スタッフが見つめてきた結果かどうか、詳しいことは分からないが、いずれにせよ、それだけ「父親の子育て」に関しての関心や要望が高まった結果の掲載であると思われる。

(4) 「J リスティング」社カテゴリ

2004 年 9 月時点と変わらず「家庭とくらし>生活>子育て・しつけ>親>父親の子育て」カテゴリに 6 件のサイトが登録されていることが分かった。しかし、「父親」で検索すると、「健康と医療>妊娠・出産>子育て>総合情報」に数多くの父親の子育てに関するホームページが登録されていることが明らかになった。その多くは Yahoo! JAPAN や Goo などに登録されているホームページを含むだけでなく、Goo と同じように、古くから作成・更新しているホームページを掲載していることも明らかになった。

(5) 「Infoseek」カテゴリ

「父親」で検索すると、62 件のホームページが登録されていた (前回より 52 件増)。メインカテゴリと思われる「暮らし>人々と文化>家族>父親」に登録されているホームページは前回とほぼ変わらない 7 件であるが、「女性>子育てと家族

というカテゴリが検索結果として表示されるところに、他の検索エンジンにはない特徴が見られる。ほか、検索結果として表示されるカテゴリは「暮らし>人々と文化>家族」「人々と文化>性別>男性」であった。

3-3 ポータルサイトに見られる「父親の子育て」

前節のカテゴリやディレクトリの検索結果の数やカテゴリ編成の変化を見ると、「子育て」そのものに対して興味・関心が全体的に高くなってきたことがうかがえる。「Yahoo! JAPAN」を見ても食育に関する特集サイト「Yahoo! きっず食育」 (<http://contents.kids.yahoo.co.jp/shokuiku/>) が誕生したり、2005 年 9 月から 11 月末限定ではあるが「この秋と冬 赤ちゃんとの生活を楽しもう 2005」 (<http://baby.yahoo.co.jp/>) という特集ホームページが特設された。そこでは、男性有名人への子育てに関するインタビュー記事なども掲載されている。

3-4 父親の子育てに関するブログ

ブログやモブログの登場で、より気軽に安価に個人が自分の意見や日記を公開することができるようになったため、マスメディアでは取り上げられないような細かな事例や経験談、実感・本音が発信されている。また、それら発信したものに対して、訪問者や閲覧者がさらに反応している、という現象が見られる。

内容に関しては 2 通りの現象が見られる。1 つは、前回の調査で明らかになった 1999 年前後に子育てをしていた人たちによるもので、その時は父親自身が育児に携わり忙しく、また、ホームページを作ることも今ほど簡単ではなかったため制作していなかったが、子育てが落ち着き、ホームページ作成が簡易になったことで、具体的にどうしたか、アドバイスやハウツー、本音などを、語り、発信しているものである。そこでは、振り返りながら今の父親に対してのアドバイスや参考ホームページ・書籍などの紹介もあるし、育児休暇に関する記事なども多く見られる。

もう 1 つは、今現在子育てをしている父親によるもので、より手軽に、より身近で具体的な話題を掲載し、子育てを大変ながらも楽しんでいる父

「父親の子育て」をメディアはどう伝えたか

親の日記形式のものである。子どもの自慢、子育ての辛さと楽しさを素直にインターネット上で語るものの多くは、少ない家庭での生活時間の中で、触れ合ったり、カメラ付き携帯電話やデジタルカメラを駆使し写真を撮ったりしながら子育てに少し参加しているという父親の現状がうかがえる。初期に多かった「育児休暇が取れるような社会・体制の必要性」「家庭を大事にすることができる価値観の浸透」を述べているものだけでなく、現在では「やってみると楽しいですよ」と呼びかけるような雰囲気のものや、汐見（2003ほか）が述べるような「よい父親になるにはよい夫になることだ」という意見も多くのホームページから見られることが分かった。

どちらも、ウェブリングやランキングサイト、ブログのコメントやトラックバックなどでネットワークを広げ、情報交換を行っているようである。

ただ、今までと違い、その数を数えることは難しくなってきた。検索サイトのディレクトリ（カテゴリ）に登録されるブログは氷山の一角である。ちなみにInfoseekの「ブログ検索」で「父親 子育て」でand検索をしてみると、2008件のブログが結果として表示される。また、「Livedoor ブログ」で同様に検索してみると1169件のブログが結果として表示された。

今までの検索サイトとは違い、記事が更新されたら即座に反映するというシステムで結果表示を行うため、検索結果はブログ単位ではなく、記事単位で表される。したがって、同じ人が頻繁に記事を更新していると、その人のブログがたくさん検索結果に表示されるということになる。父親が書いている子育て日記はブログ検索を見ていると、日々どこかでアップデートされているようである。

4. 新聞記事に見られる「父親の子育て」

4-1 先行研究の概観

酒井（2004）は、1996年から2003年の8年間の新聞記事の中から、「父親の子育て」に関する新聞記事数の推移を調査している。

その結果、1998年がピークで、その後年々減少し、育児休業法の改正があった2002年に記事数が一度増加し、また記事数が減少していることが分かっている。1998年に一番記事数が多かつ

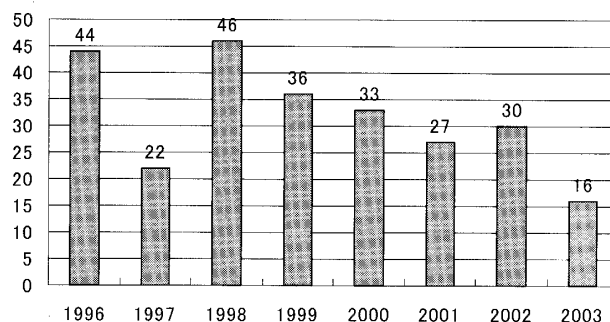


Fig. 1 酒井（2004）の新聞記事数の推移結果

た理由として、厚生白書がメインテーマに「少子社会」を据え、父親の育児参加を強く求めたという社会背景を挙げている。また、2002年の一時的な記事数の増加も、育児休業法の改正が行われた年であるという社会背景を理由に挙げている。

4-2 新聞雑誌記事検索サイトでの調査結果

さて、今回、父親の子育てについてどのような新聞記事があるのかを探ろうと、新聞雑誌記事検索ホームページの1つ「日経テレコン21」(<http://telecom21.nikkei.co.jp/nt21/service/>)の新聞記事検索で父親の子育てに関する記事を1996年から2004年までの間で調べてみることにした。その結果、検索語によって多少、酒井の調査結果とはやや異なり、全体的に年々増加していることが明らかになった。

なお、検索の手続きは以下のとおりである。

- 1) 「お父さん」「父親」「パパ」という3つの単語をそれぞれ「子育て」という単語とand検索で検索してみた。しかし、500件~2000件弱の記事が表示され、しかも子育てに直接関係ない記事まで検索されてしまった。
- 2) 「お父さん」「父親」「パパ」の3つの単語をそれぞれ「子育て支援」という単語とand検索することで検索し、記事を探すことにした。以上の手続きで検索した結果は、以下のTable. 1およびFig. 2のグラフのとおりである。酒井の調査と共通するのは、検索語を「お父さん」と「子育て支援」でand検索した時の結果である。「パパ」「子育て支援」でのand検索の結果はむしろ逆に2002年で一度減少するという結果となった。

Table. 1 子育て支援と各検索語の検索結果

子育て支援+	父親	お父さん	パパ	合計
1996	7	3	2	12
1997	5	3	6	14
1998	25	5	14	44
1999	37	19	19	75
2000	47	17	31	95
2001	50	20	53	123
2002	76	41	48	165
2003	90	36	68	194
2004	242	88	79	409

(ただし、表の合計は延べであり、同じ記事を含む)

同じ記事を含むとはいえ、2004年に父親の子育てに関する記事が多くなってきたことは明らかである。

ただ、1996年は、夫の育児に関するアンケート調査結果の記事や1996年に話題になった書籍『父性の復権』で重要なキーワードになった「父性」に関する記事等が検索で引っかかってきていないため、酒井の結果よりもかなり少なくなっていることが明らかになった。雑誌新聞記事検索については、検索方法、検索キーワードの見直し・改善がかなり必要であるという課題が残った。

4-3 新聞記事の年代別特徴

年代別にどのような記事内容になっているかを酒井のカテゴリと同様に調査したところ、多くは父親が育児参加をしたというレポートやイベント紹介、体験談などの育児紹介の記事であることが明らかになった。

また、選挙や育児に関する法律ができた時には、当然ながらそれらに関連した記事が多くなる。そのような国の動向から父親の育児参加に絡めた記事が増えていた。特に父親の育児を考える時にクローズアップされる父親の育児休暇・育児休業に関する記事は1998年に増加し、2000年以降、アドバイスなども含めた記事が目立つようである。

また、記事の視点としては、女性の目から見た「父親の育児」についての記事は2000年以前に多く、「夫婦で子育て」という考え方が見られるのは2000年以降に見られることが明らかになった。

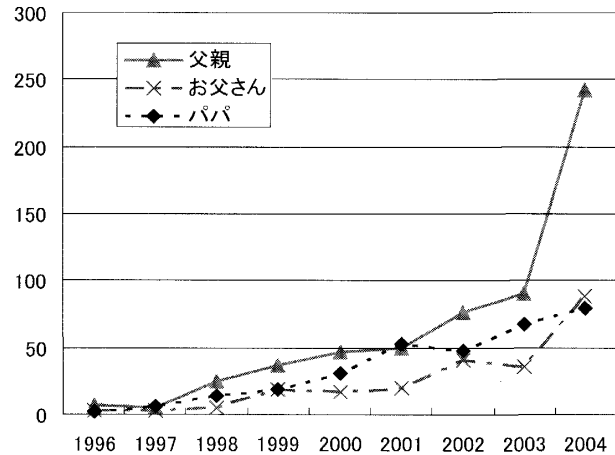


Fig. 2 子育て支援と各検索語の検索結果

「お父さん、子育てにもっと参加して」という趣旨の記事から「お父さんも子育てを頑張っているよ」「こんな風に子育てに参加しているお父さんがいますよ」という趣旨の記事への変遷が見られた。

各年の記事、特に延べ100件を越した2001年からの記事の特徴は以下のとおりである。なお、1997年から2000年までは、インターネットにも掲載されている育児休暇を取っての体験談・育児日誌の連載や父親の育児に関する連載記事、子育てに関するイベントについての記事がほとんどであった。

2001年：子育てに関するイベントの報告や、子育て支援に関するアンケートの結果に関する記事が他の年より多く見られる。さらに、連載記事だけでなく、特集を組み、子育て支援の情報を掲載しているものも前年より増えてきている。地方公共団体が子育て支援に関する冊子等を配布したという記事も見られる。i-modeによる子育て情報提供サービスの紹介記事も見られる。

2002年：厚生労働省がこれまでの少子化対策のどこが不十分なのか、また、更に対応すべきは何なのかを改めて点検し、日本の子育て支援に対して具体的な取組や育児休業取得率の数値目標を掲げた「少子化対策プラスワン—少子化対策の一層の充実に関する提案—」を発表したため、関連記事が多く見られる。また、父親の名前も母親の名前と列記できる表紙になるなど、育児手帳の刷新があったため、それに関する記事が見られる。昨年に続き、子育て支援のための冊子の紹介だけ

でなく、大分県の子育て支援ホームページの紹介をはじめとする、父親にも見てもらいたい子育て支援や子育てに関するホームページの紹介、子育て支援のためのビデオ貸し出しの紹介、子育て支援に役かっているテレビ番組の紹介など、さまざまな子育て支援に関するメディアを紹介した記事がさらに多くなってきている。また、新聞もコラムや特集ページで子育て支援の情報を掲載しているものも比較的多く見られる。

2003年：子育て支援に関するイベントの紹介や報告に関する記事と衆議院選や地方選挙に絡んだ子育て支援の政策紹介の記事が目立つ。

2004年：参議院選挙があったため、各党のマニフェストや政策で子育て支援に関して書かれている記事がかなり目立つ。また、育児休暇と絡めた記事も多いようである。子育て支援に関する場や取り組み、子育て支援ダイヤル（ホットライン、育児電話相談）、子育て支援に関する冊子配布などの紹介記事も2003年には一時減少したがまた目立つようになってきている。さらに、子育てに関するホームページの紹介も目立ってきている。ホームページの内容は、地方公共団体や各種団体が制作する子育て支援ネットのようなものや個人が付けている育児日記の紹介である。

また、虐待問題と父親の子育てとを関連させて書いている記事が目立って見られるようになったことも、この年の大きな特徴として挙げられる。

5. インターネットと新聞記事に見られる「父親の子育て」のまとめと今後の課題

今回の調査結果による新聞の記事数と、前回のようにより更新が頻繁に行われ意見や感想が盛んに書かれていたホームページの数とを単純に比較すると、新聞記事が減少している時期にホームページの数は増加し活発化しているが、新聞記事が増加する時期には、ホームページは沈静化していたとは言いがたいことが明らかになった。

しかし、前章でも述べたとおり、1996年の「父性」に関する新聞記事が検索されていないことなど、インターネットを用いた新聞記事の検索とその内容分析をより精密に行わなければならないため、新聞記事に関してのより詳細な調査を要しなければならない。

しかし、年代別の内容については、新聞がマスメディアの役割を果たすため、社会背景にいち早く対応することが多いことに対して、インターネットというメディアは、ニュースを伝達するだけでなく、むしろ私たちにとって、現代社会に生きている私たちを含めさまざまな一般市民である個人たちが、自ら生の声を挙げるメディアであるという特徴があることが明らかになった。

1990年代に新聞で書かれた手記等が時代を経てインターネットで見られるようになっていたり、逆に、新聞がインターネット上のさまざまな声を拾い上げて紹介したりというメディア間の交流も2002年以降は頻繁に見られるようになった。

2004年には、インターネットのホームページの数も、新聞記事の数も大幅に増加し、父親の子育てについて非常に関心が高まっていることが明らかになった。特に、育児休暇に関しては、2004年に数値目標が出され、父親の育児促進が謳われたこともあり、新聞、インターネット上ともに大きくクローズアップされたと言えよう。情報技術の進化とも相まって、よりたくさんの父親が体験を日記・手記という形で発信するだけでなく、古くからあったホームページがリニューアルして再活性化していたり、1990年代にすでに存在していたがディレクトリなどに掲載されていなかったホームページが、2004～2005年に改めてディレクトリやカテゴリに掲載されたりという現象が起きていることも、父親の育児に対しての関心が高まり、普及しつつあることの表れと言えよう。

<引用・参考文献等>

- 朝日新聞社編（2000）『「育休父さん」の成長日誌』朝日新聞社
- 国立社会保障・人口問題研究所編（2002）『少子社会の子育て支援』東京大学出版会
- ホリコシヒロミ他（2003）『ウェブログ入門』翔泳社
- 前田正子（2004）『子育てしやすい社会 保育・家庭・職場をめぐる育児支援策』ミネルヴァ書房
- 松田茂樹（2002）「父親の育児参加促進策の方向性」国立社会保障・人口問題研究所編『少子社会の子育て支援』東京大学出版会、313-330

松山由美子(2004)「インターネットに書かれた「父親の子育て」」『名古屋柳城短期大学研究紀要 No.26』, 149-162

内閣府(2003)『若年層の意識実態調査』

酒井美佳(2004)『新聞記事に見る父親像』大阪教育大学教育学部幼稚園教員養成課程卒業論文
汐見稔幸(2003)『お〜い父親 Part 1 [子育て篇]』大月書店

汐見稔幸(2003)『お〜い父親 Part 2 [夫婦篇]』大月書店

汐見稔幸・長坂典子・山崎喜比古(1999)『父親手帖 お父さんになるあなたへ』大月書店

汐見稔幸・田中千穂子・土谷みち子(1999)『父親手帖 Part2 乳幼児 お父さんになったあなたへ』大月書店

高間剛典(2003)『Bloggers—魅惑のウェブログの世界へようこそ』翔泳社

武部信隆(1995)『育児も男のカイショー』萌文社

山下清美 ほか(2005)『ウェブログの心理学』NTT出版

読売新聞(大阪)2000年8月3日付「元気ですかお父さん(4)・施行錯誤した育児休暇」

読売新聞(大阪)2000年8月10日付「元気ですかお父さん(5)・2人でカバーすればいい」

「アシストパパの陽だまり日記」<http://assistpapa.exblog.jp/> (アクセス:2005/9/20)

「At-home Dad—専業主夫—」<http://www1.odn.ne.jp/~cumulus/athomeda/> (アクセス:2005/9/20)

「BABY-KIDS NET (Webring)」<http://www.baby-kids.ne.jp/> (アクセス:2005/9/20)

「Excite」<http://www.excite.co.jp/> (アクセス:2005/9/20)

「夫婦で育児」わきたさきこ <http://www.eqg.org/~sakiko/> (アクセス:2005/9/20)

「GATU's Private Home」<http://xrea.com/> (アクセス:2005/9/20)

「goo」<http://www.goo.ne.jp/> (アクセス:2005/9/20)

「goo ベビー」<http://baby.goo.ne.jp/> (アクセス:2005/9/20)

「育児・子育ての輪 (Webring)」<http://kids-ring.fnpr.net/> (アクセス:2005/9/20)

「育児ライフはアメとムチ!？」<http://www.wakiwaki.com/cslife/> (アクセス:2005/9/20)

「育児日記とオリジナル本のサイト(育児日記が本になる!) Babynow」<http://babynow.jp/> (アクセス:2005/9/20)

「育児オトコへの道」<http://ameblo.jp/dako/> (アクセス:2005/9/20)

「育休父さんの育児日記」<http://www.eqg.org/~wakita/Asahi/> (アクセス:2005/9/20)

「Infoseek 楽天」<http://www.infosee.co.jp> (アクセス:2005/9/20)

「J LISTING」<http://www.jlisting.jp/> (アクセス:2005/9/20)

「子育てブログ(ブログ村)」<http://baby.blogmura.com/> (アクセス:2005/9/20)

「子育てパパのブログ日記」<http://picard.blog.bai.ne.jp/> (アクセス:2005/9/20)

「Livedoor Blog」<http://blog.livedoor.com/> (アクセス:2005/9/20)

「Looksmart JAPAN」<http://www.looksmart.co.jp/> (アクセス:2005/9/20)

「MilkAge—平成パパの子育てレポート—」<http://homepage3.nifty.com/mitmix/MilkAge/> (アクセス:2005/9/20)

「なにかいいことないかな」<http://www2.odn.ne.jp/~cbu69490/> (アクセス:2005/9/20)

「お気楽パパの子育てがんばります!」<http://okirakupapa.blog26.fc2.com/> (アクセス:2005/9/20)

「男が書く!できちゃった結婚体験記」<http://dekikon.blog25.fc2.com/> (アクセス:2005/9/20)

「親子禅問答」<http://www.ne.jp/asahi/oyako/zen-mondo/> (アクセス:2005/9/20)

「rui's diary」http://rui.babynow.jp/diary/diary_ctrl.php (アクセス:2005/9/20)

「サラリーマンパパの子育て研究所」<http://atsuo.txt-nifty.com/weblog/> (アクセス:2005/9/20)

「新米パパの育児大好き」<http://www.ikuji.cc/> (アクセス:2005/9/20)

「父親の子育て」をメディアはどう伝えたか

- 「遜文侍の世界」 <http://sonbunji.heavy.jp/> (アクセス：2005/9/20)
- 「SONBUN'S BAR」 <http://www.diana.dti.ne.jp/~taka7011/> (アクセス：2005/9/20)
- 「tag come.come 明日のために、その1。」
<http://www.sun-inet.or.jp/~tag34sai/> (アクセス：2005/9/20)
- 「Take it Cmaj!」 <http://homepagel.nifty.com/Cmaj/index.htm> (アクセス：2005/9/20)
- 「父ヒロシの育休日記」 <http://www5a.biglobe.ne.jp/~gan/> (アクセス：2005/9/20)
- 「父の鉄道写真館」 <http://f35.aaa.livedoor.jp/~powermac/> (アクセス：2005/9/20)
- 「Yahoo! JAPAN」 <http://www.yahoo.co.jp> (アクセス：2005/9/20)
- 「Yahoo! JAPAN この秋と冬 赤ちゃんとの生活を楽しもう！ 2005」 <http://baby.yahoo.co.jp/> (アクセス：2005/9/20)
- 「Yahoo! きっず 食育」 <http://contents.kids.yahoo.co.jp/shokuiku/> (アクセス：2005/9/20)
- 「wiwiw」 <http://www.wiwiw.com/> (アクセス：2005/9/20)

How Describe "Father's Participates in Child-Care" on Media — Comparison of a Internet and a Newspaper Article —

Matsuyama, Yumiko*

For a society background; for example, the campaign for Father's Parental leave by Ministry of Health, Labour and Welfare, it is told in many cases about the father who participates in housekeeping and child-rearing. Although various opinions are flying about, what has it become in fact about a father's child-care?

In order to explore present-day "participates in child-care of father" image, the report was investigated the image, opinion and view of "participates in child-care of father" is written on the internet and on the newspaper article.

In contrasts with the number of newspaper articles about "father's child-rearing", the result for the number and the updating frequency of the homepage on the web are as follows. 1) When it entered in 2004, the number of homepages increased explosively by the prosperity of blog (moblog). 2) In response to the fact that the child-care leave acquisition numerical target was improved in 2004 and the voice of childcare participating promotion of a father became large, the newspaper article about child-rearing of a father also increased. 3) In 2002 and afterwards, signs that the report about "child-rearing of a father" is alternating between Internet and newspaper. 4) In 2004 and afterwards especially 2005, the homepage which existed for many years renewed and was revitalized. And also the homepage which had already existed was improved and was introduced anew now in the 1990s.

In order to have to perform more precisely search and its contents analysis of the newspaper article using the Internet, we have to require the more detailed investigation about a newspaper article.

キーワード：父親, 子育て (Child-Care by Father), インターネット (Internet, Weblog)